

# ビアガーデンフェスティバル2024 上映作品のご紹介

## BANFF CENTRE MOUNTAIN FILM FESTIVAL WORLD TOUR

### 「Banff CENTER Mountain Film Festival in Japan 2023」 4作品

18:30-18:50

#### COLORS OF MEXICO (フランス 5分)

制作 : Commencal

フランスのマウンテンバイクの天才、キリアン ブロンが、メキシコを舞台にそのライディングテクニックを存分に披露する。メキシコで最も活発な火山の頂上に始まり、歴史ある街並みやカラフルなロードを疾走する。ダイナミックなマウンテンバイクの映像を通して凝縮したメキシコの文化や音楽を肌に感じることができるフィルム。



#### REEL ROCK 16: CENOTE (アメリカ 10分)

制作 : Reel Rock

陥没穴に地下水が溜まった天然の泉「セノーラ」。メキシコのユカタン半島に住むパイパヤ農家の少年は、ある時、友達と遊びに訪れたセノーテの壁を上ることに楽しみを見出す。純粋な目を輝かせながら、同じように透き通る泉の上を上っていく姿がクライミングの楽しさを浮き彫りにしてくれる美しいフィルム。



20:10-20:50

#### NUISANCE BEAR (カナダ 14分)

制作 : Documist

マニトバ州チャーチルは、ホッキョクグマの撮影地として世界的に有名で、写真家や観光客がホッキョクグマを間近で見ようと競い合うように撮影をしている。このフィルムでは、インタビューやナレーション、音楽などは一切なく、ホッキョクグマの目線に沿った世界を切り取っている。人間と野生動物の共生について深く考えさせられる秀逸な作品。

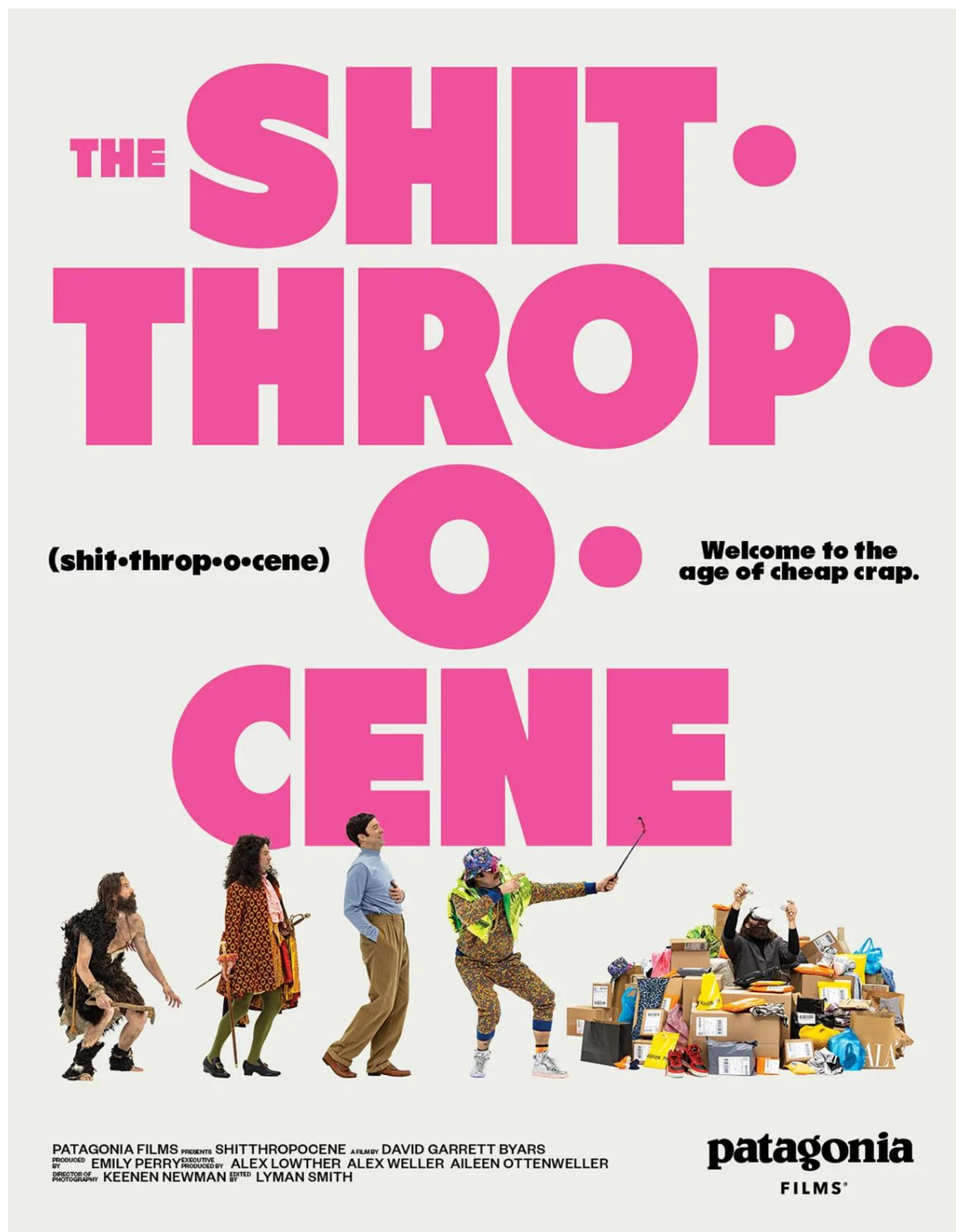


#### THE NINE WHEELS (イギリス 22分)

制作 : Burning Feet Films

夫婦とマウンテンバイクの未来のスター候補の兄弟の4人家族であるシュニーベルガー家。ある時、母親のレティシアが神経性の障害を患ったことをきっかけにヨーロッパ中のバイクパークを巡る旅をする。残されたわずかな時間を大切に生きる、家族と愛の絆を描いたフィルム。





なぜ私たちがあふれるほどモノを所有するようになったのか？

生物学的、脳科学的な側面と歴史的、社会的側面から考察する。次々と安物を買って消費していく現代を“ゴミ新生紀”とシニカルに表現し、地球のキャパシティを超えて、環境破壊が進む現状を提示する。

そこで「私たちは、故郷である地球を救うためにビジネスを営む。」と掲げるパタゴニアが、具体的に何をやっているのか？

大量の不良品を生んでしまったウェーダー(水に浸かって釣りをするときにはく防水パンツ)の問題にフォーカスして、パタゴニアのスタッフが解決していく過程と、流行の誕生の歴史や現代の広告戦略とからめて、物語はコミカルに進行していく。

耐久性のある服は長く着られるから、地球環境保護につながるというパタゴニアのメッセージが終盤に登場するのだが、同時に「耐久性のある製品をつくるのは意外に難しい」という事実を痛感することになる。

最後には消費漬けになった現代人の、自己救済へのヒントも紹介される。